



令和6年10月29日  
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

## 国土交通省国土地理院による1：25,000活断層図「今庄」の公開について

10月29日、国土交通省国土地理院により、「令和6年度 1：25,000活断層図」が公表され、当該活断層図の「今庄」において、高速増殖原型炉もんじゅ（以下、「もんじゅ」という。）が立地する敦賀市白木付近に、北東－南西に延びる約1kmの「推定活断層（地表）（位置やや不明確）」が示されました。

国土地理院によれば、「推定活断層（地表）（位置やや不明確）」の定義は、地形的な特徴により、活断層の存在が推定されるが、河川の浸食など他の原因でできた地形であるとも考えられ、現時点では、明確に特定できないものであり、かつ位置が不明確なものとされています。

原子力機構としましては、「もんじゅ」の耐震安全性評価等について、次のとおり確認されていることから、今回の発表が、「もんじゅ」の廃止措置等の作業に影響を与えるものではないと考えています。

### 【「もんじゅ」の耐震安全性評価等について】

「もんじゅ」におきましては、原子炉を設置するための地盤調査で、原子炉建物の基礎岩盤が堅硬な岩盤で占められていることを確認しており、更にその後を実施した耐震安全性評価等について、次のとおり国により確認されています。

- ① 新耐震指針及び新潟県中越沖地震を受けた耐震安全性評価（耐震バックチェック）を行い、旧原子力安全・保安院から妥当であると評価を受け、耐震安全上重要な施設の安全性は確保されている。
- ② 耐震バックチェックの一環として敷地内破砕帯の追加調査の指示を受け、敷地内破砕帯等について詳細な地質調査等を行い、その評価結果に基づき、原子力規制委員会の有識者会合では次のとおり判断されている。（平成29年3月15日）
  - ・白木－丹生断層の活動の影響が、もんじゅ敷地内に及んで、敷地内破砕帯が後期更新世以降に活動したと考える証拠は認められない
  - ・敷地内破砕帯は少なくとも後期更新世以降の活動性はない
- ③ 更に、廃止措置計画においては、廃止措置段階において耐震安全上重要な施設の安全性は確保されることが原子力規制委員会により確認されている。（平成30年3月28日）

原子力機構としましては、「もんじゅ」の廃止措置にあたり、引き続き、安全確保を最優先として、立地地域並びに国民の皆さまのご理解を得ながら、着実に実施してまいります。

以上